

### ステレオ針とモノラル針のカンチレバーへの取付け方の違い

ステレオ針の場合、針の中心軸がカンチレバーに対してほぼ垂直に近いものから、そうではなくカートリッジの水平面に対して垂直に近いものまでマチマチです。

そしてカンチレバーの方は無針圧状態ではカートリッジの水平面に対して約 20° 前後の角度がついています。

少々アバウトですが、小さな図面からこのカンチレバーの角度を測ってみますと、アキュフェーズの AC-5 の場合は 21°、デノン DL-103 の場合は 15° です。

実際にレコードを演奏する場合は針圧（AC-5 は 2g、DL-103 は 2.5g）を掛けますので、針先はレコードの音溝に押し付けられます。音溝の垂直方向に対する針の中心軸の角度は多少変化することになります。

またこの音溝の垂直方向に対する針先の角度はトーンアームを「前下がり・後下がり」にしても変わるし、針圧を変えても微妙に変化すると考えられます。

そもそも問題な事は演奏の対象となるレコードのステレオカッティングがどのような垂直トラッキング角度（大体 15° のようです）で行われたのか？ですが、それはレコードからは知る由もありませんネ。

これに対してモノラル針のカンチレバーへの取付け方は大分違います。

カンチレバーの先端はいったん水平方向へ起され、その面に垂直に針先が取り付けられています。つまり針圧を掛けた演奏状態では（ステレオ針とは違い）モノラル針の中心軸は音溝に対してほぼ垂直になっていると考えられます。

図示すると次のようになります：



ステレオ針(1)  
DL-103  
DL-103R



ステレオ針(2)  
AT-OC9/III  
MC PW(Windfeld)



モノラル針  
SPU Mono G MK II  
AT33MONO

何故こうなっているのか？ですが、やはりモノラルとステレオの音溝の違い、カッティングの仕方の違いが原因だと考えられます。

カートリッジによりカンチレバーの材質・形状、カンチレバーへの針の取付け方、針先形状は実にマチマチです。“トレーシング”に対する考え方は大変幅が広いと言えます。針圧の調整、トーンアームの僅かな上下によりそのレコードの音溝にベストフィットするトレースの仕方が見つかるかもしれません。